

- いわて希望塾
- 「いわて家庭の日」絵画・ポスターコンクール
- いわて親子フェスティバル
- 社会生活に困難を有する子ども・若者支援セミナー
- 第19回わたしの主張岩手県大会
- 子ども・家庭・地域に関する交流セミナー



青少年 12 いわて 2017

平成29年度「いわて希望塾」を開催しました！



集合写真



震災学習

平成29年11月3日(金)～5日(日)の2泊3日、県内各地から138名の中学生、活動をサポートする青年サポーター18名が集まり、平成29年度「いわて希望塾」を開催しました。

震災からの「復興」が進む沿岸地域において、実際に避難道を歩き被災状況や復興の様子を見聞きするとともに災害の教訓を学んだことは、参加者にとって貴重な経験となりました。また、市町村の枠を越えた交流活動、「復興」について事前に「地域の声」を集めてきたほか、調べたこと等を持ち寄ってグループワークを行い、最終日には岩手の「復興」や地域づくりについて「未来への宣言・メッセージ」として発表しました。



班活動



歌練習



班活動

毎月第3日曜日は **いわて家庭の日**

岩手県青少年育成県民会議では、青少年を守り育てる運動として
「いわて家庭の日」を主唱しています。

推進協力：岩手県・岩手県教育委員会・岩手県警察本部



いわて 希望塾



青年サポーター

平成 29 年度「いわて希望塾」実施概要

☆目 的

震災からの「復興」が進む沿岸地域において、体験的活動や市町村の枠を越えた交流活動、「復興」についての学びを行うことにより、震災を風化させることなく、積極的に岩手の「復興」や地域づくりを担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成することを目的とする。

☆期 日

平成 29 年 11 月 3 日 (金) ～ 5 日 (日) 2 泊 3 日

☆会 場

- (1) 岩手県沿岸地域 (宮古市、山田町、大槌町)
- (2) 岩手県立陸中海岸青少年の家

☆参加者

- (1) 塾 生 県内各地中学生 138 名
- (2) 支援者 青年サポーター 18 名 (地域で活躍する青年)

1 日目

11 月 3 日 (金)

コース別学習

震災からの「復興」が進む沿岸地域において、体験的活動や「復興」についての学び

宮古

浄土ヶ浜ビジターセンター～展示・説明
～自然歩道 (説明) ～レストハウス



復興学習

大槌

復興資料館 (市街地の模型を使った学習、
展示物) ～旧大槌町役場～町方地区～蓬萊島



復興学習

山田

市街地 (説明) ～復興案内所
(写真・映像上映) ～御蔵山 (説明)

コース別学習 ふりかえり / 発表

3 つのコース別に「復興」に
ついての学びを他の塾生と共有



各コース別学習発表の様子

2 日目

11 月 4 日 (土)

グループ ディスカッション

自分達が調べてきた事前課題 (地域の人 10 人の
希望する岩手) を持ち寄って自分達の考えを話し合う

総合コーディネーターの菅野道生氏、梨子真実氏によるワークショップ
「キボウ☆トークカフェ」



キボウ☆トークカフェ

トークタイム (40 分間) × 3 回

- 前半 25 分間: 地域ゲスト 1 名のお話
(自己紹介、お住まいの地域の魅力、復興に
向けた想いなど...)
- 後半 15 分間: 塾生からの質疑応答

一人ひとりが抱く
地域への想いを集めて、
みんなでオモイを
カタチに...



グループディスカッション



地域ゲスト

ふじボン ミニトークショー



ふじボンちゃん

誰よりも岩手にこだわり、
地元岩手をこよなく愛する岩手の
タレントふじボン☆
ラジオ・テレビなどで活躍中!!
復興支援活動も積極的に
行っています。

パネルディスカッション

復興や地域づくりに関する
先輩塾生によるパネルディ
スカッション



パネルディスカッション

塾長メッセージ (知事講話)・対話

「復興」そして「その先にあるこれからの岩手」

塾長: 岩手県知事 達増 拓也



塾長
(岩手県知事)



塾長との対話

- 1 「復興」
- 2 「ふるさと復興」
- 3 「これからの岩手の取り組み」
- 4 「幸福度を高める新しい県の計画」
- 5 「岩手の青少年に期待すること」

3 日目

11 月 5 日 (日)

未来への宣言 (全体発表)

自分たちが望む将来の姿をまとめ、「未来への提言・メッセージ」として提案

個人の提言 (漢字一文字・想い) ▶ 班の提言 (個人の漢字一文字を使用) ▶ ギャラリーウォーク

ふりかえり (全体交流会)

ふりかえりシート、アンケートの記入、修了証配布



未来への宣言

「いわて家庭の日」絵画・ポスターコンクール

「平成 29 年度『いわて家庭の日』絵画・ポスターコンクール」の表彰式が 11 月 19 日（日）に北上市の北上市民交流プラザ展示室にて開催されました。

今年度は、県内の小学校、中学校、高等学校から「いわて家庭の日」をテーマに、家族の思い出や理想の家庭などを表現した温かみのある作品 206 点の応募がありました。

9 月 19 日（火）に優秀作品の選考委員会が開催され、全ての応募作品の中から児童の部と生徒の部併せて 12 点が優秀作品に選出され、最優秀賞が 2 点、優秀賞が 3 点、そして優良賞には 7 点の作品が選ばれました。

なお、盛岡市のアイーナにて 10 月 5 日（木）から 10 月 16 日（日）まで入賞作品及び盛岡近郊地域、県北地域、沿岸地域からの応募作品の展示を行い、北上市のさくら野百貨店の連絡通路、通称りぼん橋にて 11 月 9 日（木）から 11 月 19 日（日）まで入賞作品を含む全作品の展示が行われました。

県内の様々な人に作品を観ていただき、「いわて家庭の日」を広く周知することができました。

「いわて家庭の日」絵画・ポスターコンクール
応募総数：206 点

（児童の部：176 点、生徒の部：30 点）

募集期間：平成 29 年 7 月 1 日（土）～9 月 16 日（土）

選考委員会：平成 29 年 9 月 19 日（火）

入賞：12 点（児童の部：8 点、生徒の部：4 点）

盛岡展示：平成 29 年 10 月 5 日（木）～16 日（日）

北上展示：平成 29 年 11 月 9 日（木）～19 日（日）

表彰式：平成 29 年 11 月 19 日（日）

〔児童の部〕最優秀賞



【家ぞくのキラキラ花火】

盛岡市立仁王小学校 3 年

せき ゆずき
関 柚希 さん

入賞作品一覧



入賞者 11 名・県民会議会長による記念撮影

〔生徒の部〕最優秀賞



【タやけ笑顔】

奥州市立前沢中学校 3 年

さとう ちか
佐藤 千夏 さん

〔児童の部〕優秀賞



【おいしかったべんとう】

北上市立江釣子小学校 4 年

いとう ゆう
伊藤 優空 さん



【海、楽しかったよ】

九戸村立江刺家小学校 2 年

まつもと くるみ
松本 来琉未 さん

〔生徒の部〕優秀賞



【しあわせみつけ！】

北上市立上野中学校 2 年

さとう まなか
佐藤 愛果 さん

〔児童の部〕優良賞



【家族で楽しい雪遊び】

軽米町立軽米小学校 4 年

うちざわ りり
内澤 璃々 さん



【二人で魚をつったよ】

大船渡市立越喜来小学校 3 年

さとう しょうこ
佐藤 渚子 さん



【えがおでかたもみ】

北上市立江釣子小学校 4 年

たかはし さくら
高橋 桜 さん



【兄弟で仲良く読書】

軽米町立軽米小学校 4 年

かさい みずき
葛西 瑞希 さん



【みんなそろってハイ、チーズ!!!】

奥州市立南都田小学校 6 年

おのでら か
小野寺 まゆ香 さん

〔生徒の部〕優良賞



【岩手家庭の日】

奥州市立衣川中学校 1 年

ひらの まなみ
平野 真菜美 さん



【いわて家庭の日】

岩手女子高等学校 2 年

ふじむら あやの
藤村 綾乃 さん

いわて 親子フェス

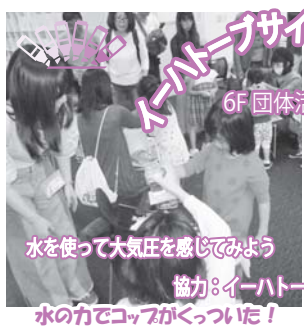
2017 10/9

10:00～

来場者数:

会場:アイーナ (4F/6F/小)

親子であそぼうコーナー



フェスティバルを盛り上げた



実行委員と当日ボランティア



親子で作ろう! コーナー 6階 団体活動室 2・3



2017

フェスティバル in アイーナ

月

16:00

4,602人

小田島組☆ほ〜る/803)

「第4回いわて親子フェスティバルin アイーナ」は、今年もたくさんの親子連れが来場し、大きな賑わいを見せました。初の開催となる7階小田島組☆ほ〜るの「キッズランド」には、ミニ機関車や段ボール迷路に何回もトライする子ども達の姿がありました。

高校生や大学生の実行委員が、5月から何度もアイーナに足を運び、試作、試行を繰り返して当日を迎えたいくつものプログラムは、子ども達の笑顔であふれて、頑張りが報われたと思いました。

また、10月ということで、ハロウィンにちなんだプログラムも多く、衣装したボランティアスタッフも子ども達には好評でした。

6階 ラウンジ



遊びリンピック

6階 団体活動室1



初開催!!

7階 小田島組☆ほ〜る キッズランド

いわて家庭の日 絵画・ポスターコンクール 作品展示 (P3で入賞作品紹介)



社会生活に困難を有する子ども・若者支援セミナー

発達障害 (ASD・ADHD) について考える

「発達障害」に対する正しい理解が進み、障がいを抱える子ども・若者が社会生活を円滑に営めるよう必要な支援の充実につなげるため、4回の連続講座のうち、1回目及び2回目を開催しました。

第1回では、講演のあとに、参加者の普段の取り組みや、講演の感想等を話すグループワークの時間を設け、そこで出た質問を講師が答える形式で行いました(第2回は講演時間が延長となり、講演と質疑応答で実施)。参加者からは、事例をもとにエピソードが豊富でとても分かりやすく勉強になった等の感想を得ました。

なお、次回(3回目及び4回目)は1月19日(金)及び同月28日(日)に開催予定です。

第1回セミナー

「はじめての発達障害～最新の知見に基づく発達障害概論～」

日時：平成29年11月24日(金) 13:30～16:00

会場：岩手県立大学アイーナキャンパス学習室1 (アイーナ7階)
ながよし やすのり

講師：岩手県発達障がい者支援センター 相談支援部 長葭 康紀 氏

講演要旨

発達障がいとは…発達凸凹(得意・苦手の差が大きい)+適応障がい(環境において困っていることがある)

発達障がい(困っていること)の特徴

○感覚的なズレがある ○過去の嫌な記憶で苦しむことがある ○解釈の仕方が独特 ○感情理解の苦手さ ○会話の質的な苦手さ ○対人関係の苦手さ ○概念の苦手さ ○極端な思考 ○変更の苦手さ ○整理統合の苦手さ
○知っている≠活用できる ○注意集中のコントロールの苦手さ ○衝動的な言動

発達障がいについて

○学習面や行動面、もしくはその両方で困難を感じる人(発達障がい)は“少数派”であり、“多数派が便利になるように進化する”環境では生活がしづらい。
○“少数派”が生活しやすくする工夫が必要。
○発達障がいには「自閉スペクトラム症」や「ADHD(注意欠如多動症)」、「LD(学習症)」と複数の種類があり、人によってその特徴の様子や程度が違うため、“どう関わっていくか”が重要。
○支援者は“通訳者”となり、お互いをよく知ること(アセスメント)が大事である。



長葭康紀 先生



質疑応答

第2回セミナー

「医療の場から見る発達障害～その課題と対応(幼児期)～」

日時：平成29年12月2日(土) 13:30～16:00

会場：団体活動室2・3 (アイーナ6階)

講師：社会福祉法人新生会 みちのく療育園 副施設長 川村 みや子 氏
かわむら こ

講演要旨

1) 時代の変遷と発達障がい

○子どもの育つ間に関わる人が減ってきた(3世帯一緒→核家族、母子家庭、父子家庭)
→「他者の意図を読む、他者に配慮、共感、思いやり」の機会減少
○子どもの遊びが全身運動・手先の運動からゲーム・動画に変わった
○子どもの教育の変化(学歴偏重→体験して感動して学ぶことが減る)、ゆっくり発達するのを待ってもらえない(焦りが生じ、叱ることにつながる)。
○叱られ続ける→自己肯定感低下→二次障害(不安障害、睡眠障害等)

2) 子どもの発達

○心は生まれつきの特徴に環境要因(アタッチメントとコミュニケーション)が絡み合って発達
○母親の声かけや授乳、抱っこ等に養育行動によって子がアタッチメント(共感や安心)を起こす。
○内言語を使いこなすことで感情や行動のコントロール

3) 母親支援・地域支援

○発達障がいの子どもを育てる母親の支援として「あれんと」等が「ペアレント・トレーニング(ペアトレ)」の普及開始
→スキルアップや情報交換により、母親の不安等を解消
○褒めることで好循環に(褒める→問題行動が減る→親子関係良くなる→親は楽になる)
○子育てで大切なこと→生まれつきの良い特性を伸ばし、生まれつきの困った特製困らないようにし、自己肯定感が低くならないようにすること(親は安全地帯、周囲は共感相手、子どもを認める褒める人、善悪を教える人)。



川村みや子 先生



講演の様子

第19回わたしの主張岩手県大会

「第19回わたしの主張岩手県大会」が9月14日（木）に滝沢市のビッグルーフ滝沢にて開催されました。今年度は、各地区大会から選出された代表者18名が未来に向けての夢や希望、日常生活の中で感じていることや考えたことなど、それぞれの思いを発表しました。

「得意なことを数えよう」という題目で発表した奥州市立東水沢中学校3年の小野寺悠来さんが大会の最優秀賞に選ばれ、優秀賞には2人、優良賞には3人の生徒が選ばれました。

アトラクションでは、滝沢市立滝沢南中学校の生徒による「合唱」が披露されました。

なお、本大会の最優秀賞受賞者の小野寺悠来さんは、11月12日（日）に東京都で開催された「少年の主張全国大会」において、国立青少年教育振興機構奨励賞を受賞しました。



アトラクション



県大会参加者

第19回わたしの主張岩手県大会

日時：平成29年9月14日（木）

会場：ビッグルーフ滝沢（滝沢市）

出場者：県内各地区大会から選出された
17名及び会場地から推薦された
1名の計18名の中学生

入賞者一覧

最優秀賞	奥州市立東水沢中学校3年	小野寺 悠来	「得意なことを数えよう」
優秀賞	盛岡市立松園中学校3年	三浦 芽育	「言葉にする勇氣」
〃	大船渡市立越喜来中学校3年	花崎 踊	「生きている私だからできること」
優良賞	花巻市立花巻北中学校3年	吉田 桜	「磨く」
〃	宮古市立宮古西中学校3年	鈴木 梨佳	「互いを認め合える社会に」
〃	釜石市立釜石中学校3年	佐久間 洸	「海が教えてくれた」



小野寺 悠来 さん

得意なことを数えよう

これは何のノートでしょうか。ここにいる九割以上の方は「国語のノート」と答えるのではないのでしょうか。しかし、小学1年生だった当時の私にとってそれは、国語のノートではありませんでした。

皆さんは、「発達障害」という言葉を知っていますか。生まれつき脳の一部に障害があり、落ち着きがない、こだわりが強い、空気が読めないなど、社会生活に様々な困難を感じます。このすべてにあてはまっていたのが私です。

当時、「国語のノートをしましましょう。」と言う先生の指示が聞けず、一人立たされていました。決して反抗しなかったわけではありません。しかしなぜ、先生の指示が聞けなかったのか。当時の私にとってこれは、「国語のノート」ではなく、「パリオノート」だったからです。

私は小学2年生の頃、発達障害の診断を受けました。当時の記憶で鮮明なのは、校長室での個別授業や、隣で必死に謝る母の姿です。

学校で怒られ家で一人になると心の中で、「お前死ねよ」と自分に対して自分が言います。本当に死にたいと思った事もありました。

そんな私がなぜ、この場に立っているのか。

一番苦しかった時、私の隣にはいつもたった一人の親友がいました。彼は私という人間を理解し、丸ごと受け止めてくれました。また、小学校6年間ずっと同じクラスだった友達。ダメな事はダメ、良い事をすると素直にほめてくれる。今思うと「お世話係」のような存在でした。彼らと出会えて本当に良かったと改めて実感します。

そして家族。トラブルの度に一緒に謝ってくれるだけでなく、好奇心旺盛な私がやりたいと言ったこと。例えば、学習塾・体操教室・野球・サッカー・スイミングなど、ど

れも「どんどん挑戦しなさい。でも、最後まで続けること。」と言って心から後押ししてくれました。

このような人達に支えられ、私は自分を小さくする事なく生きてこれたのです。

そして、中学生となった私は、周りの推薦もあり学級委員長に挑戦しました。放課後一人残り、仕事をしていると、先生から「お前頑張ってるな。そういうとこ、俺は認めてっからな。」と声を掛けられました。

自分の良さを認めてくれる先生がいる。この経験が他の事にも前向きに挑戦しようという力になりました。

私は今、応援団長をしています。生徒会リーダーの一員として心掛けて来た事、それは、「出来ている事に目を向ける。」そして全体を伸ばすことを意識すると、出来ない事が減り出来ている事が更に磨かれていく。「挑戦をやめない限り、人は成長できる。」という事を自身の経験から学びました。

進路を考える時期になり、自分に何が出来るか。何をしたいかを真剣に悩む中で、教師になるという大きな目標ができました。私の可能性を信じて寄り添ってくれた友達、様々なチャンスをくれた家族、そして先生。今度は私が、悩んでいる人の良さを見つけるサポートをしたいと思います。

「障害を持って生まれてきた事を不幸だと思うか。」と問われたら私はきっぱり「ノー」と答えます。過去の私がそうであった様に大切な事は「どの様な人達と出会い、自分がどの様に生きて行くか。」だと思うからです。

「出来ない事を数えるのではなく、得意な事を数えよう。」この考え方が、今の私を支えています。

奥州市立東水沢中学校3年 小野寺 悠来

平成29年度子ども・家庭・地域に関する交流セミナー 八幡平市生涯学習推進大会兼PTA連絡協議会研修会

八幡平市において、保護者や地域、教育関係者が一堂に会し、子どもに関する様々なテーマについて意見を交わし理解を深めることを目的としてセミナーを開催しました。最初に担当小学校PTA、西根第一中学校 PTA 及び平館高校による活動発表を行った後、4つの分科会に分かれた参加者は、それぞれの講師より専門的な話を聞き、子育ての認識と理解を深めることが出来ました。全体会では、各分科会の内容の発表により情報の共有をし、最後に声楽家の工藤和子さんのコンサートでは、童謡の歌詞にこめられた親子の思いを聞き、素晴らしい歌声に参加者は魅了されました。



全体会の様子



工藤和子氏

分科会テーマ・講師

第1分科会

「くじけない子の育ちを支える心のケア」
～心の強さ、意欲を高める非認知能力をどう育てるか～

さかもと ひろし

講師：坂本 洋 氏 ((一社) 岩手県私立幼稚園連合会 会長
幼保連携型認定こども園 盛岡幼稚園 理事長)

第2分科会

「ネットと子ども」
～子どもが安全にスマホを利用する方法～

のどや たく

講師：能登谷 拓 氏 (公社) 岩手県青少年育成県民会議 専門職員

第3分科会

「障がい児・者への支援」
～多様性：共に生き、共に学ぶ～

きむら やすお

講師：木村 泰雄 氏 (元岩手県立松園養護学校 校長)

第4分科会

「子ども自分も生活習慣病にならないために」
～家庭でできる! 気をつけたい食のポイント～

むらさと ともこ

講師：村里 智子 氏 (もりおかこども病院 管理栄養士)



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会

平成29年度子ども・家庭・地域に関する交流セミナー

日時：平成29年9月30日(土) 13:00～16:30

会場：八幡平市西根地区市民センター

主催：岩手県、八幡平市、(公社) 岩手県青少年育成県民会議
いわてこどもの心研究懇話会 (IK-kon)

参加者：177名

「いわて家庭の日」新ロゴマーク募集

毎月第3日曜日の「いわて家庭の日」をより多くの人に知ってもらい、親しみをもって取り組んでもらうため、新しいロゴマークを募集します。

募集期間：平成30年1月20日(土)まで(当日必着)

応募資格：岩手在住であればどなたでも応募できます！

※プロ・アマ、年齢、個人・グループ問いません！

募集内容：家庭・親子のふれあいを啓発する「いわて家庭の日」をイメージするのにふさわしいロゴマーク

応募方法：所定の応募用紙に必要事項をご記入の上、作品と一緒に応募ください。

※応募用紙はいわて県民情報交流センター(アイーナ)内にある青少年活動交流センターのチラシ配架ボックス(1階・3階・6階)から入手またはホームページ(<http://www.aiina.jp/seishounen/index.html>)からダウンロードしてください。

入賞：有識者による選考を経て、以下の2賞を決定します。

最優秀賞：1点(賞状+3万円相当の副賞)

優秀賞：2点(賞状+1万円相当の副賞)

応募・問合せ先

〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1

いわて県民情報交流センターアイーナ6階(青少年活動交流センター内)

公益社団法人 岩手県青少年育成県民会議



いわて家庭の日とは 親子・家庭の絆を深める日

青少年が健やかに成長するには、家庭の力が欠かせません。子どもと向き合う、家族みんなで過ごす、家族そろって食事をする。

『いわて家庭の日』は家庭を大切に、実践する日です。

家族そろって食事をしましょう

家族でいろいろ話す時間を多くしましょう

家の仕事をみんなでしましょう

食事の準備、後片付け、掃除、洗濯など

語り合い、教え合い、支え合いを大切にしましょう

家族の絆、思いやりを育むように心がけましょう

早寝早起き朝ごはん

家族でルールを決め、生活リズムを整えましょう

事業所などでも、家庭生活を支援できる職場づくりをしましょう

☆皆さんからのご応募、お待ちしております☆